

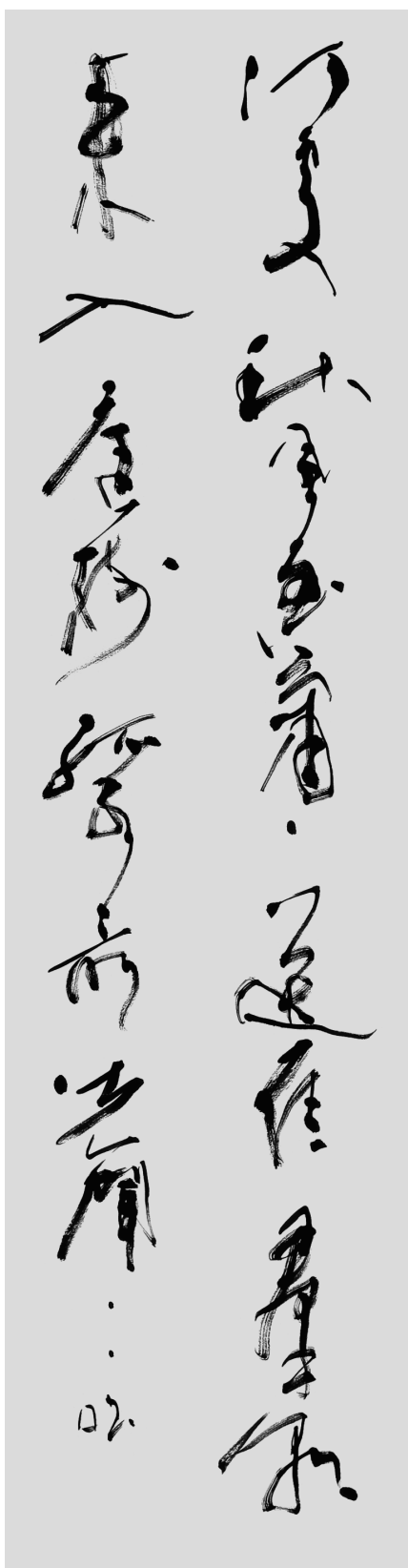
9月25日正午必着

明石春浦先生書



まつをたきめいをすゝる
焼レ松 啜レ茗 (李山甫) 喫茶の樂み。

明石幸子書



いすれのさうりかしゅうふういたる
何處秋風至
ちようらいていじゆにり
朝來入庭樹
しょうしょうとてがくぐんをおくる
蕭蕭送雁羣
こかくもっともきにいきく
孤客最先聞

(劉禹錫)

これは樂府題で、特に管弦にかけて歌ったものである。この詩、唐詩選に收む。

9月25日正午必着

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

秋聲満樹間^二（湯仲友）

秋聲樹間に満つ

秋風が樹林を吹いている。

暮雲卷^レ雨 秋先到^二（郭 鉦）
桂樹末^レ花 意自香

暮雲雨を巻いて秋先ず^{いた}到^{いた}
桂樹花さか未^ぎるも意^い自^{おの}ずから香^{かほ}し

桂花は即ちもくせいの花をいう、これは桂の古木を
よんだものである。

泊^二靈溪館^一（鄭 巢）

靈溪館に泊す 鄭巢

孤吟疎雨絶 荒館亂峯前
曉鷺棲危石^一 秋萍滿敗船^一
溜從^二華頂落^一 樹與^二赤城連^一
已有^二求閑意^一 相期在^二暮年^一

孤吟すれば疎雨絶ゆ 荒館 乱峰の前
曉鷺 危石に棲み 秋萍 敗船に満つ
溜れは華頂^{かちよう}從^{より}り落^おち 樹^きは赤城^{せきじょう}と連^{つら}なる
已に閑^{かん}を求^{もと}むるの意^い有^あり 相期^{あいき}すること暮年^{ぼねん}に在^あり

雲白く藏王^{さわう}の山の横顔^{よこがほ}を隠^{かく}しあらはし

初秋^{はつあき}の來^くる （平野 萬里）

三浦士岳先生書

秋風窗下琴書靜
夜景門前人吏稀
（錢起）

秋風窗下琴書靜。

夜景門前人吏稀（錢起）

題張藍田訟堂^二

半紙部規定課題A

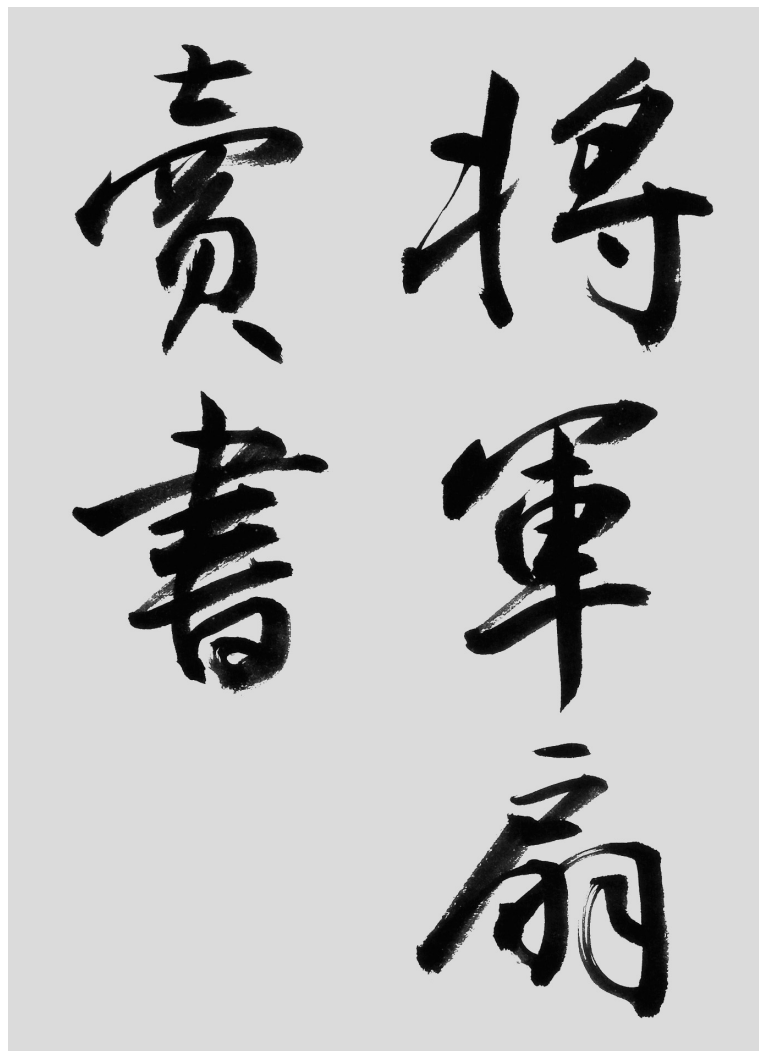
9月25日正午必着

將軍賣書

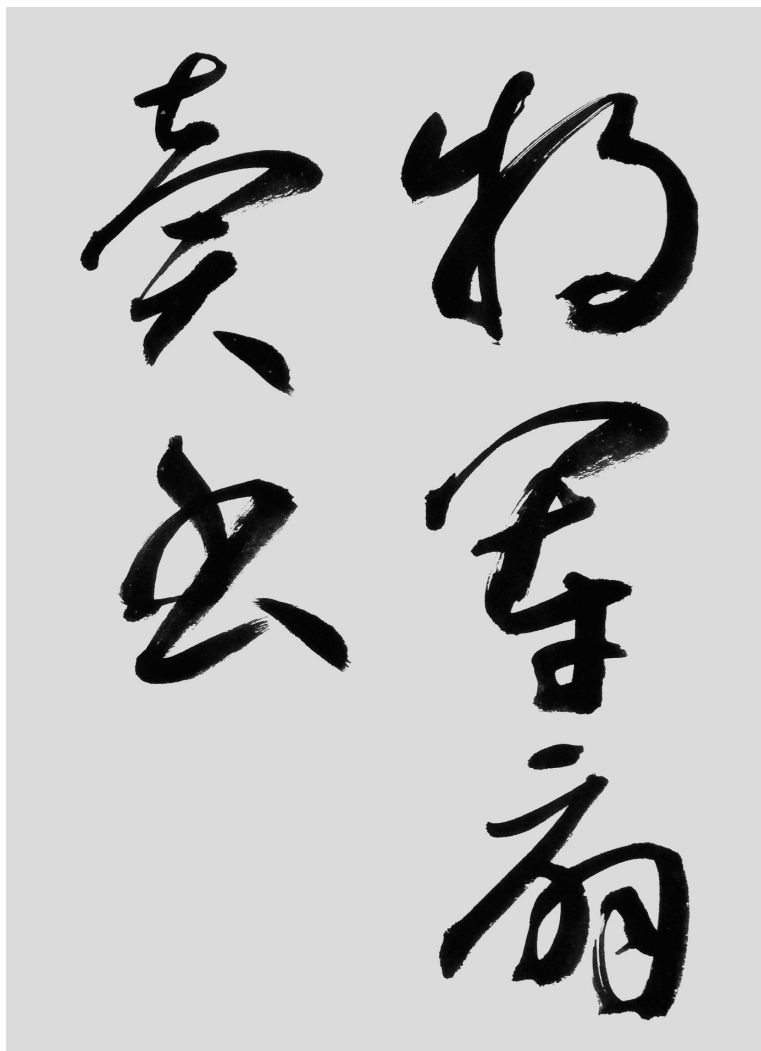
※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(五体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。



行書



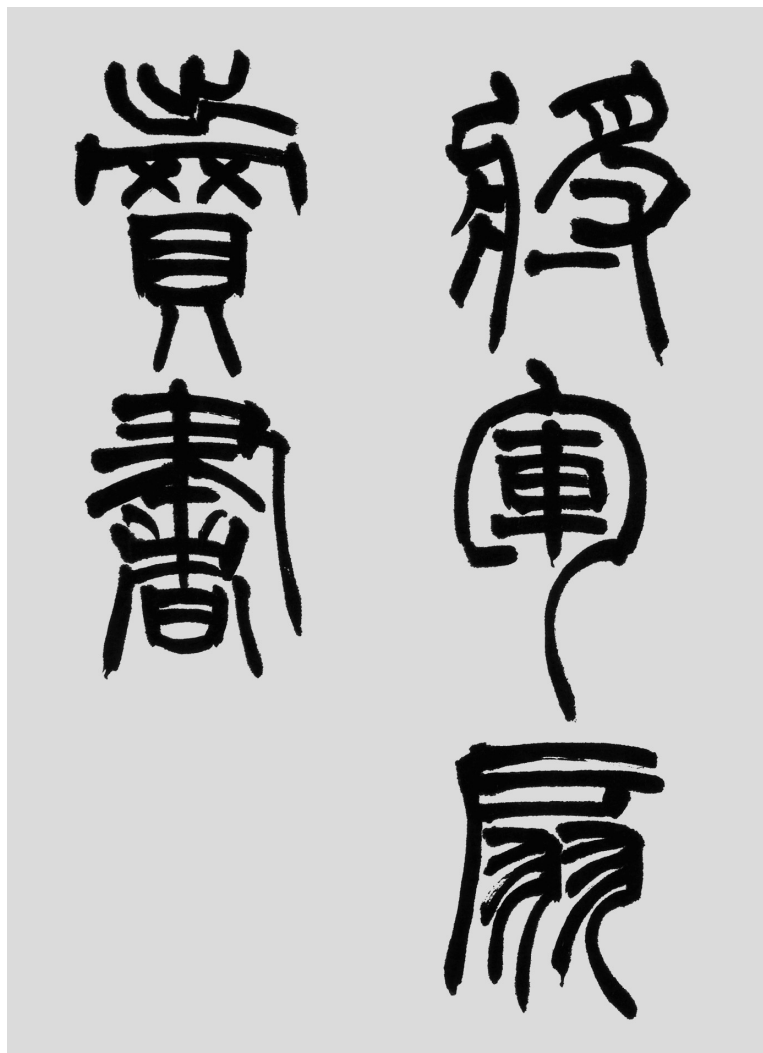
草書



隸書



行草書



篆書

送曹椅一 司空曙

青春三十餘
衆藝盡無如
中散詩傳畫
將軍扇賣書
楚田晴下雁
江日暖多魚
惆悵空相送
歡遊自此疎

曹椅を送る 司空曙

青春三十餘
衆芸 尽く如く無し
中散の詩は画を伝え
將軍の扇は書を売る
楚田 晴れて雁を下し
江日 暖かくして魚多し
惆悵として 空しく相送る
歡遊 此れ自り疎ならん

齡三十余りの若さを以て 諸芸はみな及ぶものがない
嵇康のごとく、その詩は絵画に描かれて伝えられ 王羲之のごとく、扇に書かれた文字が売られる
楚の地の田野は晴れわたって雁が下りたち 江のほとりに日は暖かく、魚が数多く泳いでいる
悲しみ嘆きつつ、さびしく君を送る これからは楽しく遊ぶことはめったになかろう

9月25日正午必着



謙は、
亨る。

西
墨濤先生臨書



謙、亨。君子有終。彖曰、謙亨。天道下濟而光明。地道卑而上行。天道虧盈而益謙、地道變盈而流謙、鬼神害盈而謙は、亨る。君子終り有り。彖に曰く、謙は亨る。天道は下濟して光明なり。地道は卑くして上り行く。天道は盈を虧きて謙に益し、地道は盈を変じて謙に流し、鬼神は盈を害して(謙)に福し、

清 鄧石如・『周易』謙卦六屏

鄧石如(一七四三〜一八〇五)名は琰、字は石如。後に石如を名とし、字を頑伯と改めた。皖公山の麓に居をかまえていたことから、完白山人とも号した。官途には就かず、名家を訪ね、各地を放浪しながら書を学び、書や印を売って生計を立てた。篆刻の技に秀でたものがあつたが、篆書や篆刻は父親の木斎から教えられたもので、特に師匠についているわけではない。

篆隸楷行草の各体及び、篆刻に多大な功績を残したが、あらゆる漢碑を臨書し、秦漢の篆隸という古い書体を血の通う生きた書風を蘇らせ、その結構は厳整にして変化きわまりなく、むしろ雄偉な風格を形成した。包世臣の『芸舟双楫』では清朝第一の大家として賞揚しており、正に碑学派の棟梁としてふさわしい存在である。

書道のことを中国では書法という。中国人には自己の書法の確立という意識が強いかもしれない。ところが鄧石如の隸書においては一作ごとに異なった意趣があり、年代の進行に伴ってその心境が変化して固定することがない。自己の書法の完成といった卑俗な意識が無かつたのであろう。古典を真つ向から捉え、さらに真つ向から新たな創造に結実させた墨跡は貴重なものとなる。

この書は『周易』(中国の古典である易経に記された占術)六十四卦のうちの十五番目の謙の卦を隸書で書かれたもので、篆書に多く見られる表現方法があり、鄧石如独特の隸書表現と言われている。最晩年の六十三歳の時に書かれた名品の一つとされる。

君子有終

完白文
周易謙卦

令和八年歲在
丙午九月下旬
節縮

君子終り有り。

△倣書参考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

高節卓不羣

左太冲句

丙午無射下浣

倣鄧頑伯筆意書此墨濤

高節卓不群（左思）

※落款部分
・太冲〓左思の字
・頑伯〓鄧石如の字



西 墨濤先生書

※用紙サイズ：半紙 $\frac{1}{2}$ タテ書き（毛筆）・玄和細字用紙（25枚綴り ¥550 | 税込、送料別）

庭の柿

庭の柿
土用の
ふくおときげ



松永翠舟先生書

わが庭の柿のはかたくなりけり土用のかぜのふくおときげば
王可 能八可多 奈利尔介 可 支介八 (島木赤彦)

9月25日正午必着

教育部毛筆

夜露

よ
夜

つゆ
露

中学一年

雨宮春聲先生書

藍色

あい
藍

いろ
色

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



けっ
結

か
果

小学五年

榎戸春龍先生書



つう
通

やく
訳

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着



藤田幸春先生書

もく
目

じ
次

小学三年



細谷春誠先生書

にゅう
入

もん
門

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ふ ろ 小学一年・幼年



森戸春濤書

お多 い 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

大むかしの生活は動
物とともにすごした

小学五年

夜空にさいた打ち
上げ花火の美しさ

小学六年

汽車はーだいに速力を
増して遠ざかって行く

中学

花は散ることによつて生命
の輝きをふすものである

一般(級位)

天のはら雲ふきはらふ 秋風に 山の端たかくいづる月影 (後鳥羽院)

云のはら雲ふきはらふ 秋風
に山の端たかくいづる月影

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

かがやく星空を見て
いるとゆめが広がる

小学四年

海の見えるレス
トランに行っただ

小学三年

秋かぜにゆれる
コスモスの花

小学二年

月のせいかいど
うさぎがおどる

小学一年

しゃねまてどけ
しやぼんだま

幼年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。